一茶ゆかりの里四季の俳句会　（令和四年十月～十二月分）

選者　高山俳壇　高野　悠子　先生

一般の部

特選天　画布畳み旅の花野を持ち帰る　群馬県　川野　忠夫

秋の七草でしょうか。絵筆で描く未完の花々を旅の野花を持ち帰るとは読む人に期待感あり。完成した絵が見たい…

特選地　秋の山お洒落をしても負ける色　群馬県　竹渕　千恵子

自然が醸し出す色には、どんなにお洒落をしても適わない。納得がいく。

特選人　小ぶりなる秋刀魚も旬の味のして　群馬県　竹渕　てる子

ここ数年秋刀魚の不良続きです。スリムな秋刀魚ばかりだが旬の味がしたとは、言い得て妙。

入選　手打する声をちこちに酉の市　千葉県　安田　蝸牛

入選　酒蔵の酒売り切れて糟を売る　群馬県　滝澤　照香

入選　ぬかるみに抜けない足で稲を刈る　群馬県　竹渕　洋子

入選　風花を見てをり風を見たつもり　群馬県　櫻井　なるみ

入選　柿供う妻の笑顔や三回忌　群馬県　山口　岩美

入選　蒼天を揺らして柿を捥ぎにけり　群馬県　鈴木　百合子

入選　晴れた日は庭いっぱいの新小豆　群馬県　仙田　美名代